



伊藤忠商事株式会社

業種 総合商社

従業員数 4,215名（2025年）

URL <https://www.itochu.co.jp/>

本社所在地 東京都港区

取組の特徴

森林整備活動等を通じた企業理念や地域の現場を学び、チームビルディングに繋ぐ「合宿研修」の導入



チームビルディング エンゲージメント リーダーシップ



組織変革 心身の健康 SDGs

実施地域 森林サービス産業推進地域「滋賀県高島市地域」

受入組織 [\(公社\)びわ湖高島観光協会](#)、[森林公園くつきの森](#)

実施概要

社会貢献協定を締結した滋賀県と協働して、地域の行政・事業者等の課題把握を経て、解決策の企画提案を行うプログラムを通して、企業理念である「三方よし」という商人の精神を主体的に学ぶ「合宿研修」を実施。森林整備活動等のフィールドワークを通して、チームビルディングとともに、多面的・分野横断的なものの見方・デザイン思考も学ぶ。

導入の経緯と決め手

- 2022年に滋賀県と社会貢献協定を締結した中で、新入社員研修で伊藤忠グループ企業理念「三方よし」を実践するため、滋賀県との協業プロジェクトとして合宿研修を創設。
- 滋賀県が一次産業を重視しており、伊藤忠商事もマーケットインの発想で暮らし（衣食住）を支える商材・サービスに強みを持っており、林業にも着目。
- 新入社員研修の受入実績があり、「現場主義」を実践する場として森林整備活動も選定。



プログラムの構築とねらい・工夫

- 自治体による講義・インタビューとフィールドワークを通して、地域課題を把握。課題解決のアイデアの壁打ち・仮説検証を経て、新規事業提案を行うことで、知識やスキルの習得だけでなく「三方よし」という商人の精神を研鑽するプログラムを構築。
- 3つの小テーマを設け、様々な事業分野の受入先8つを設定することで、地域課題解決に向けた多面的なもの見方、部署間連携によるデザイン思考を育めるようにしている。
- 新入社員約130名を24チームの少人数に分け主体性等を醸成。伊藤忠グループ全体のリソース活用（例：事業領域の知見提供や実現可能性の検証など）の視点も入れ、リアリティの向上を促す。



プログラムの効果、担当者・参加者の声

[効果] 非日常の環境に身を置くことで、本社では見られない一面が見られる。フィールドワークを通して連帯感が高まり、チームビルディングにも寄与。地域課題やビジネスの現場に直接触れる機会や、社会や事業を捉えるきっかけにもなっている。

[担当者の声] 「フィールドワークでは、作業を進める中で自然と会話が生まれ、役割分担によりチームワークが生まれ、新入社員同士のコミュニケーションも非常に活発」

[参加者の声] 「地域との交流・体験を通して、「三方よし」の理念が実際のビジネスや地域づくりの場で具体的に機能していることを実感した」

「森のプログラム」導入事例

- ①新入社員研修 合宿研修（滋賀県との協業プロジェクト）
（4泊5日のうち1日森林活動等、2日間企画検討・提案）



プログラム事例

◆新入社員研修 合宿研修（滋賀県との協業プロジェクト）

日程	プログラム	ねらい・内容
1日目	滋賀県によるプレゼンテーション・チーム別対話	全体テーマ「琵琶湖と共生する自然豊かな滋賀県における持続可能な地域づくり」、小テーマ「循環型農畜産業」「農村地域の賑わいの創出」「関係人口」に関する現状・課題認識
	高島市インタビュー	インタビューを通して、地域の具体的な課題を共有
2日目	創業地訪問	近江商人の原点を学ぶため、滋賀県の創業地を訪問
3日目	《フィールドワーク》オリエンテーション	※小テーマ「関係人口」の事業として「森林整備」班を設定（8つの受入先の1つで「森林公園くつきの森」が選定）
	森林整備活動	3班に分かれ枯損木の処理・除伐、遊歩道の整備等
	昼食	参加者同士・指導者と交流
	森林整備活動	午前と同様。活動前後の状況を確認し、成果を共有
	質疑応答	参加者同士で質問項目を議論し、指導者が質疑応答
4日目	壁打ち・仮説検証	「森林整備」班では、「関係人口」の創出に向けて企画検討
5日目	最終提案	滋賀県知事・伊藤忠商事CAOへのプレゼンテーション（「関係人口」の創出に向けて①ペットとの訪問、②樹木葬、③企業研修等が提案）